

群馬県立女子大学図書館協議会会報

第6号

2000年12月25日
群馬県立女子大学図書館協議会発行
〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町4-2
群馬大学附属図書館気付
TEL 027-220-7182
FAX 027-220-7184

平成十二年度 大学図書館研究会

於 群馬県立女子大学
共催 群馬県図書館協会

今年度の研究会は、「国立情報学研究所のサービスについて」をテーマとして、十月三十一日(火)、群馬県立女子大学を会場に開催し、二館四二名の参加があった。

初めの基調講演では、国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課の京藤貫課長が研究会のテーマと同じ演題で、国立情報学研究所が本年四月、学術情報センターを改組し設置された経緯を紹介し、同研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)、情報検索サービス(NACSIS-IR)、電子図書館サービス(NACSIS-ELS)などの現況を分かりやすく紹介した。また、新しい取り組みとして、目録システムの多言語資料への対応、米国の同種の機関(OCLC, RLG)との国際協力の推進等についても言及した。

引き続き事例報告があり、講師を交え、活発な意見交換がなされた。また、研究会終了後、初めての試みとして懇親会が開催され、和やかなひとときとなった。

基調講演

『国立情報学研究所のサービスについて』
国立情報学研究所開発・事業部
コンテンツ課長 京藤 貫

一、設置の経緯及び目的

○経緯：学術情報センター(全
国大学共同利用機関として一
九八六・四設立)を改組し、
二〇〇〇・四に設置。

○目的：学術情報基盤の整備、
情報分野における基礎から応
用までの総合的研究を行い、学
際性の追求、産官学の連携、国
際的研究活動の促進を図る。

二、学術情報ネットワーク

学術研究情報ネットワーク
整備のため、七五五の大学等
の機関のLANを相互接続し
日本最大の研究系インター
ネット・バックボーン(SINET
: Science Information Net-
work)を構築。米国、欧州、
タイとも国際専用回線により
接続。

三、NACSIS-CAT(目録システム)

・参加機関数：七八三(日本の
国公私立大学の約八〇%)
・レコード件数：書誌：約五五
〇万件、所蔵：約五、〇〇〇万
件(約七〇〇万件/年、二・

五(三万件/日の増加)

品質管理の現状：①重複書誌
レコードの処理②削除予定レ
コードの処理③登録データの
モニタリング④目録情報に関
する質問書への回答⑤レコー
ド調整(クレーム処理)⑥質問
書/回答書DBの整備⑦ビデ
オ「総合目録データベースの
品質管理」の作成

・週及入力事業：①蔵書目録
カードを基にしたデータ入力
②既存機械可読データの週及
交換③各国 MARC の導入④
「週及入力指針」の策定

・NACSIS-Webcat：総合目録
DBのWWW版検索システ
ム。インターネットを介して
無料で利用可。利用統計(検
索回数)：二六〇万(一九九
七)、六一〇万(一九九八)、
一、〇四〇万(一九九九)

・拡張機能(平成十二年度開発
予定)：①多言語対応②イン
ターネット上のコンテンツへ
のリンク機能

・新CAT/ILLシステム：NH
システムのオープン化、同時
接続台数増加への対応のため
二〇〇五年を目処に完全移
行。特徴として①インターネッ

四、

ト時代に対応した新しい図書
館システムとして、ユーザイ
ンターフェースの工夫が可能
②図書館システムとのシーム
レスな連携③多言語対応シス
テムの実現④二十四時間運転
の実現(二〇〇〇・九より毎
週土曜日もサービス実施)⑤
NACSIS-CATの多言語対応
(二〇〇〇・一サービス開
始)。DB側の文字セット：国
際符号化文字集合(UCS)、ク
ライアント側の文字セット：
UCS-JIS,GB,GBK。漢字統合
インデックス使用。CHINA
-MARC, KOR-MARC(予
定)の整備。二〇〇〇年度一〇
万件の中国資料の週及入力計
画(東大、京大)。韓国・朝鮮
語資料への対応。

・NACSIS-ILL(ILLシステム)
・累積レコード件数：五〇〇万
件、一日平均約四、二〇〇件
(全国の大学図書館の依頼件
数の約七〇%)
・BLDSC(UK)への依頼：一
九九四年サービス開始。累積



レコード：二八、〇〇〇件（一九九四年）。

・国立国会図書館への依頼：一九九六年サービス開始。累積レコード：七五、〇〇〇件（一九九六年）。

・ILLシステムの海外連携：①ISO-ILLプロトコルの実装②Z39.50の実装（二〇〇〇年から開発開始）

五、NACSIS-IR (情報検索システム)

・データベースの種類：作成DB：二八種、導入DB：一六種、受入DB：二四種。総レコード件数：約一億件。利用登録者数：七、三三三（九二七機関）

六、NACSIS-ELS (電子図書館)

・一九九七年サービス開始。参加学会：一〇八、学術雑誌：三三一種

七、事業の国際展開

・国際ネットワークの整備：日米回線：一五〇Mbps（一九九八・十）、タイ：二M（一九九五・九）、日英：二M（一九九六・十一）

会場館から

群馬県立女子大学 川島 裕

国立情報学研究所の京藤課長の講演に続いて行われた、研修会では、十二年二月に業務を電算化した県立女子大学がシステム（伊藤伊LAS）について事例発表を行った。

本学では、電算化が諸事情により、大幅に遅れ、他大学が何年度目のシステム更新を行う時代に、公立六十六大学（当時）の六十三

番目の導入になってしまったこと、入札により、UNIX版システム・ILASを廉価で導入でき、その分、図書盗難防止装置の設置に回せたこと、初年度（十一年度）に、利用の多い、学科関連図書（文学・芸術学）六万冊をデーター化し、今年度内に残り七万冊（一般図書、洋書）のデーター化を完了する予定であること、などを報告した。

電算化二年目となる十二年度は、研究室図書約四万冊をデーター化する予定で、二、三年後には、インターネットを通じた県民への資料公開も検討中である。

また、電算化により、国立情報学研究所との接続ができ、CAT、ILLの利用が可能になったこと、貸出・検索がスピードアップし、利用が急激に向上したことなど、電算化の著しい効果を生んでいることも発表した。

続いて、システム開発者の株式会社伊藤伊より、開発までの苦心談や、システム機能の説明をしていただいた。



この後、各出席者から国立情報学研究所へのサービスについて熱心な質問があった。

特に、外部委託の際のデーターの品質維持についての質問に対し、京藤氏は新CATの講習を受けた人が管理すべき、と答えた。

研究会終了後は、学生食堂で、初めての懇親会（十七大学・二十四名出席）を行い、親睦を深めた。

厳しい図書館環境の中ではあるが、各自の意欲は高く、平成十四年度に本県で開催される、第八十八回全国図書館大会大学部会・短大高専部会の成功を確信することができた。

参加者からの声

関東学園大学 武藤康司

国立情報学研究所の京藤課長の基調講演で幕を開けた平成十二年度大学図書館研究会では、NIIのサービス内容について、より理解を深めることができた。進展するIT化のなかで図書館が変革を迫られている昨今、従来型の「図書館」と「司書」が未来に向けて大きく変っていく姿を想像しながら拝聴した。

とはいえ、自館に照らしてみれば、そうした先端的なサービスとはまだ格差があることを痛感せざるを得ない。それは講演後の討議においても感じられたことだが、施設の増築、機器の増設等ハード面で各館が抱える問題が図書館サービスに少なからず障壁となっている。だがその前に、やるべきこ



とを整備したうえでの情報検索等のサービスを活かすという点では、程度の差こそあれ、皆抱えている問題は同じなのではないかなどと勝手に解釈していた次第である。

言い換えれば、本学においても利用促進、電子資料の提供などやりたいことはいくらかもあるが、適切なサービスを活かすには、遡及入力必要性、情報提供などについて、はつきりとした運用体制を確立していくことが欠かせない。

さらに本学では、レファレンスを核としたサービス展開を目標としているだけに、基盤整備と司書のスキルアップが大きな課題である。そうした意味からも、今回の図書館研究会は私にとって大きな収穫であった。

共愛学園前橋国際大学 茂木とし子

学術情報センターから国立情報学研究所へ名称変更になったのは知っていましたが、その経緯及びサービス内容についてはよく知りませんでした。今回この研究会において、国立情報学研究所について理解する良い機会に恵まれました。

本学は短期大学から大学へ改組転換して二年目です。大学図書館といっても小規模で、いろいろな面でこれから少しずつ整備する必要があると考えています。特にNACSIS-CAT・NACSIS-ILLへの接続は重要課題だと考えていました。京藤貫先生の講演をうかがい、サービス内容及び各館の接続状況等について知ることができ、とても勉強になりました。またこれからの課題や方向性についても興味あるお話でとても有意義でした。

毎年情報化が進み、ますますさまざまな情報であふれる社会になると思います。その中から必要な情報を的確にスピーディに選択できる技術を身につけられるよう自己研修に励みたいと思います。そして日常業務に役立てていけたらと思います。

また、研究会終了後の茶話会で、各図書館の方々と楽しい時間が持てたことを感謝しております。

群馬バス看護短期大学 石井久雄
本学は平成十年に開学したばかり



りの単科の短期大学であり、図書館もまだ満足できるような蔵書を集め得ておりません。また、交通の便が良いとはいえない場所に立地しています。そのために、本学教員には不便を強いているのが現状です。その上、国立情報学研究所に接続されておらず、従って国立情報学研究所のサービスは受けておりません。それどころか、図書館の電算化も現在計画している段階で、まだ整備されていません。しかし、今後、電算化を考えていく上で見通しを得たいと思い、受講させて頂きました。

今回の講演を聴き、国立情報学研究所のサービスを受けられるようになれば、現状よりも研究をしている人たちにとって研究しやすい環境になると思います。大学であるからには国立情報学研究所のサービスをフルに活用できるような研究環境を整えたい、整えなければならぬことを痛感し、しかしそれ以前の山積する課題をどのようにクリアしていくか、開設時から苦勞を重ねられ一つ一つ図書館機能を整備・充実させてくれた先輩方のご助言を仰ぎたいところです。

新加盟館紹介 「群馬松嶺福祉 短期大学図書館」

図書館長 鈴木健治

本学は平成十一年四月に開学しました。現在二年目を迎えて学生は卒業後の就職活動、現場実習等



で忙しい日々を過ごしております。このように新しい短大でご存知ない方も多いかと思うので、大学の宣伝もかねて本学の図書館を紹介させていただきます。

群馬松嶺福祉短期大学の「松嶺」はどう読むのかという問い合わせが時々ありますが、「シヨウレイ」と読みます。大学は太田市の東方に位置しております。太田市の強力な支援を受けて開学いたしました。太田市は、利根川と渡良瀬川に囲まれた自然豊かな地域で、自動車や電気産業を中心とした主要工業都市であります。また歴史的にも有名で、由緒ある史跡が数多く残されています。古代人の生活を体験できる「古代村」といった施設もありますので、図書館をご利用かたがたそれらの古代文化や自然に親しまれるのもよいのではないのでしょうか。

本学への最寄りの駅は東武伊勢崎線太田駅で北口より徒歩二〇分程度です。あいにく、バスなどの交通機関は不十分で、徒歩か自転

車、または自動車を利用することになります。自動車でしたら職員用、来客用、学生専用をあわせて四〇〇台以上駐車可能ですので、駐車するのには困ることはありません。

今日、福祉系の人材を求める声は高く、本学もそのような社会的要望に応えて専門的知識と技能を短期に、しかも、集中的に修得させるのが特色で、社会福祉士養成の福祉文化専攻と、介護福祉士養成の健康福祉専攻の二専攻があります。そのため、カリキュラムも福祉分野が中心ですので、それに関連した図書が必要になります。また、国際的な視野にたつて福祉を研究し、実践に生かせるような養成もおこなっており、昨年はオーストラリアやイギリス、北欧などに学生はまいました。そのため、事前事後指導を含めて海外の見聞を広めるための図書の充実にも力を入れております。

さて、本題の図書館ですが、図書館は研究兼講義棟の二階にあります。毎年、二千冊以上の図書を購入する予定で、教員が推薦する図書だけでなく、学生からの希望や一般の人たちからの希望にも応じられる選書をするようにしております。蔵書の傾向は、福祉関係の図書だけでなく、海外旅行、外国への留学、外国の文化や産業などの図書もそろえてあります。

最近、図書館を開放する動きが盛んになってきておりますが、本学も平成十三年四月からバリアフリーの精神で、利用対象者に制限

を設けずに貸出しサービスを伴う地域開放を開始する予定です。そして、利用者の多様な求めに応じられるようにするために、専門的知見を深めるためばかりでなく、国家試験の傾向などを調べたり、これから福祉を学ぼうとする中学生や高校生のためにもなるような初歩的な本やビデオも用意してあります。

図書館の実際の利用につきましては、ホームページ(<http://www.shorei.ac.jp>)の図書館案内をご覧いただいてもよいと思います。公共の図書館や他の大学に所蔵されていない福祉関係の図書を幅広く所蔵しておりますので、他で見あたらない場合は是非お問い合わせください。図書館のシステムは一般的な図書館と同じですので、利用しやすい図書館であろうと考えます。

地理的な面で多少ご不便をおかけするかもしれませんが、図書館に直接来館できない遠距離の方が利用するためのシステム、つまり、



蔵書の問い合わせから貸出、返却、また、複写等が居ながらにしてできるような方法はないか、現在模索中です。地域開放が間近にせまっておりますので、今後、気楽にご利用いただけたらと思います。

加盟館トピックス

群馬女子短期大学 橋本登美雄
 高崎健康福祉大学の開学

群馬女子学園を母体に、新しく「高崎健康福祉大学」が設置され、二〇〇一年四月に開学のはこびとなった。新大学は健康福祉学部の中に健康情報学科、保健福祉学科、健康栄養学科の三学科が置かれ、これまでの群馬女子短期大学は、「高崎健康福祉大学短期大学部」となる予定である。現在、新大学の校舎の建設が進められており、図書館は楕円形の別棟で、外光を十分に取り入れた明るい図書館になる。延面積 約九〇〇㎡、図書収容力約六五千冊、座席数一二三席が予定されている。全面的な開架方式で、出入口にはブックディテクション装置を設置し、蔵書の管理を行うとともにカバンやバッグ等の持ち込みも自由になる。また、学内LANも整備されるので学内外から蔵書の検索が行えるシステムも導入されることになっている。現在の群馬女子短期大学図書館は、短期大学部分館となり、新大学の図書館と一体で運営される予定である。

二〇〇一年二月から四月の開学へ向けて現短大から新図書館へ一

部図書の移動を行うことになっており、相互利用等で加盟館にご迷惑をかけることもあるかと思いますが、ご了承願います。

高崎商科短期大学 本村理恵子
 高崎商科大学の開学

高崎商科大学流通情報学部流通情報学科は、二十一世紀のIT社会におけるビジネス・リーダーの育成を目指し、二〇〇一年四月より開学いたします。

また同時に、高崎商科大学短期大学部現代ビジネス学科(高崎商科短期大学秘書科より名称変更)も、新たなスタートを切ることとなります。

これに伴い、図書館はメディアセンターとして生まれかわるため施設面の整備が行われました。特に閲覧室の増設においては、閲覧席が七二席から一二〇席に増え、ソファやカウンター形式の閲覧テーブルが設置されました。

また、学生の情報教育の技術面の学習をサポートするために、OA自習室を館内に完備し、知識と技術の融合を目指しています。施設面だけでなく、サービス面においても、開館時間を平日は午後七時半、土曜日は午後四時まで延長し、学生及び教職員の調査研究をサポートします。

これからの課題はいろいろありますが、より一層のサービスの向上を目指し、日々の業務に努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いたいと思います。

高崎経済大学 松本好則

公立大学協会図書館

協議会ニュース

公立大学では全国組織の図書館協議会があり、全国を五ブロックに分割した地区組織の地区館協議会があります。群馬県は東部地区に属しており、この協議会は十月六日に会津大学で開催され、二〇館中一七館二二名が出席いたしました。協議事項としては

(1)平成十四年度の全国会長館には、東京都立大学が選出されました。

なお、平成十三年度の東部地区館協議会の幹事校は群馬県立女子大学です。

(2)東部地区役員選出のルール化する方法が話し合われました。

二 承合事項とは、あらかじめ問題を提起し、その回答を集計して、話し合いを行います。今回提起された問題点は、以下のとおりです。

- (1)地域の図書館との連携について
- (2)学生用雑誌の購入について
- (3)電子ジャーナル、オンラインデータベースの導入状況について
- (4)土曜開館における、職員の配置、予算、問題点等について

印象に残ったのは承合事項の(1)については県立女子大川島課長が群馬県の事例を発表してくれました。県内の図書館は良く連携が取れており、これからはますます大学間及び地域図書館間の協力体制に微力ながら努力してゆきたいと思いました。